

3591 欧州 18 カ国の旅：カディス再訪のロマン

ぜひ今一度、カディスに身を置きたかった。栄枯盛衰、夢とロマン、今は昔。

アンダルシア、カディスは、ジブラルタル海峡の西側、大西洋。

海上交通の要衝として栄えた港町。コロンブスが新大陸へ2回目の航海に出た港だった。



フラメンコ、闘牛の本場アンダルシア、ピレネーを越えると、そこはアフリカ。
文化、伝統、芸術にアラブの香りが色濃いスペイン。特に最南部に位置するアンダルシア。

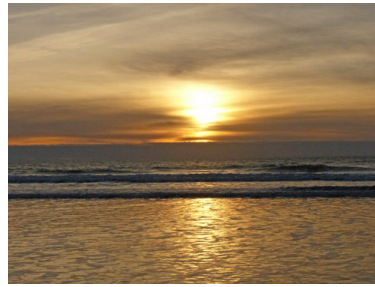
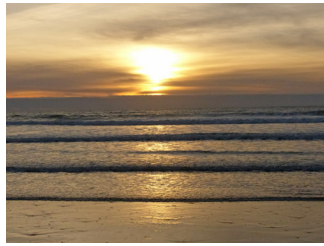
8世紀初めから800年間続いたイスラム帝国の支配。

グラナダのアルハンブラ宮殿、コルドバのメスキータなどアラビア文化の香りが
至る所に残っている。夕闇の喧騒の中に響きわたるカンテ（歌声）は、
もの悲しいけれど、力強く情熱的。今を楽しく生きようという思いが込められているらしい。

歴史の一ページを飾ったカディスの街も、今はひっそり。訪ねたのは晩秋。

誰もいない海。私には素敵な静かな海岸線。砂浜に腰を下ろした。

夕景。その時、カナリア諸島で見たような夢とロマンの豪華客船が目飛び込んできた。



この後、昔、船乗りたちが集まっただろう、酒場かバルの雰囲気を楽しみたい、
その前に、どんな食材があるのか、魚は豊富だろう、視察に市場へ。
その後、夜の街に出かけた。街の灯りは、いささか照明不足。少しドキドキしながら